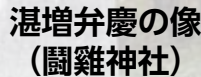
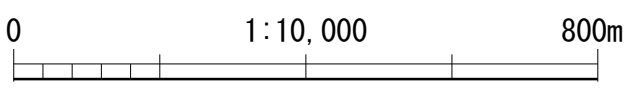


田辺城跡周辺の  
文化財を訪ねる



墨書土師器（田辺城下町遺跡）

田辺城は別名「錦水城」と呼ばれ、現在では市指定史跡となっている水門跡が残っています。これまで田辺城下町遺跡をはじめとして発掘調査が行われており、調査の成果や現在の街並みから、かつての田辺城とその城下町の姿を見出すことができます。今回のイベントでは、田辺城跡とその周辺をマップを手に歩き、田辺市の歴史を再発見する旅へとでかけます。



和歌山県埋蔵文化財抱蔵所在地図に加筆

北新町の道分け石

\*この見学会は、令和2年度国宝重要文化財等保存・活用事業費（地域の特色ある埋蔵文化財活用事業）の補助金を受けて実施しています。



## ▶田辺城と城下町

慶長5年（1600）、関ヶ原の戦いの後、勝利した東軍に属した浅野幸長が和歌山城主になったことを受け、重田である浅野氏重が紀南地方統治のため、会津川右岸の上野山城に入城します。慶長8年（1603）にはその麓にある会津川河口付近の洲崎に平城を築いたとされますが、慶長10年（1605）、波浪によりこの洲崎城が壊れたため、慶長11年（1606）、新たに対岸に湊城を築きました。これが田辺城の前身と考えられます。

この湊城は、元和元年（1615）に公布された「一国一城令」でいったん廃城となったと考えられていますが、元和5年（1619）、浅野氏の安芸転封と徳川頼宣の入府に伴い、付家老である安藤直次が湊城跡を田辺城として整備し、幕末まで田辺城とそれを中心とする城下町が繁栄しました。絵図などから城の東側には与力・足軽屋敷があり、その外側には町人町が形成されていたと考えられています。

田辺城は南側は海、西側は会津川に面しており、北と東側に堀を掘削して城と城外を区画していました。その規模は東西南北約400mで、本丸に天守はなく、陣屋形式の平城と伝わります。田辺城とその周辺に関する発掘調査としては、上屋敷Ⅲ遺跡・今福町遺跡の調査が行われており、上屋敷Ⅲ遺跡の調査では大手門内の家老屋敷が一部調査され、溝状遺構や築地塀あるいは建物の基礎部分と思われる根石などが確認されました。

田辺城下町遺跡は田辺城跡の東側を中心とした遺跡で、平成19・21年に海蔵寺通りで発掘調査が行われました。調査では城下町があった江戸時代と弥生・平安時代末～鎌倉・室町時代の遺構や遺物が確認されています。

江戸時代の町人町の生活をしのばせる生活雑器を中心に様々な遺物が出土していますが、「糖漏」と呼ばれる道具が出土しており、18世紀以降田辺城下町で白砂糖が製造されていたことが明らかになりました。



田辺城下町遺跡発掘現場



南紀男山焼



糖漏

## ▶田辺城水門跡

### 市指定文化財

明治4年の廃藩置県に伴い、紀伊田辺藩は廃藩となりました。田辺城は払い下げられた後、建物は取り壊され、堀も埋められたため、一見すると現在では城が存在した痕跡はなくなってしまったように思われます。しかし、会津川に向かって開口している水門跡と石垣の一部が現存しており、田辺城そのものの遺構として、今もこの水門跡を訪れることができます。また、水門跡の所在する錦水公園内には、田辺城ゆかりの瓦などが展示されています。

江戸時代には、この水門を利用し、会津川から舟で田辺城に入ることができたと考えられます。



田辺城水門跡

## ▶現在も残る田辺城や城下町の痕跡

現在の田辺城跡周辺では、城があった記憶や痕跡が消えつつあります。

かつての田辺城跡周辺の街並みにみられた、意図的に道をずらして食い違いを設けた丁字路や鍵型道路も、近年の開発で姿を消しつつあります。丁字路や鍵型道路は現在でも全国の城下町にみられる区割りで、城下町から城までの間で外敵の侵攻を遅らせることを目的として設けられていたものです。

一方で、田辺城跡周辺を歩いてみると「本町」や「袋町（福路町）など、城下町に関係すると考えられる地名が現在も残っていることがわかります。また、一部ではありますが、田辺城の石垣は町中に埋もれるように現在でも残っていることが、研究により明らかになりました。



田辺城外堀のものと伝わる石垣（道路部分が外堀跡） 写真提供：水島大二氏

## ▶高山寺貝塚

### 国指定史跡

過去の発掘調査により縄文時代早期後半の3基の貝塚が確認されています。土器や石器のほか、シカやイノシシといった動物の骨なども出土しています。とりわけ、出土した尖底押型文土器は、縄文時代早期後半の標識土器である「高山寺式土器」として広く知られています。

また、貝塚のある高山寺（真言宗）には、本堂前に文化13年（1816）建立の多宝塔があり、鎌倉時代後期の木造聖徳太子孝養立像（県指定文化財）が安置されているほか、移築された五反田古墳の横穴式石室や墓所には「田辺三偉人」に数えられる博物学者・南方熊楠、合気道創始者・植芝盛平の墓が所在します。



高山寺貝塚石碑



高山寺多宝塔

## ▶田辺城と安藤氏

安藤直次は幼少期から徳川家康に仕え、姉川の戦いをはじめ、長篠の戦い、小牧・長久手の戦いで活躍したことが知られます。家康の信任も厚かったため、慶長15年（1610）家康の命により家康の十男、徳川頼宣の付家老に任ぜられ、大坂の陣を経て元和5年（1619）、徳川頼宣が紀州藩に入府すると、直次もそれに付随し、同年に紀伊国田辺3万8000石を与えられ田辺城主となりました（江戸時代は独立した藩とは扱われませんでしたが、慶応4年（1868）に明治政府により正式に紀伊田辺藩として独立しました）。

ただし、直次本人は紀州徳川家の重臣として和歌山城下に常駐しており、田辺城は直次の従弟である安藤小兵衛が留守居役を務めることとなりました。

田辺城跡の水門跡がある錦水公園内には、安藤家の家紋である下り藤に安藤家の「安」の文字が入った軒丸瓦が置かれていますが、近年行われた和歌山城跡の発掘調査でも、絵図などで確認される安藤家屋敷跡とされる場所から同じ下り藤に「安」の文字があらわれた軒丸瓦等が出土しています。



和歌山城跡より出土した安藤家家紋瓦（左：軒丸瓦・右：滴水瓦）